

# 授業報告：卒業論文作成のための情報検索入門

藤原 敦 (ふじわら あつし)

卒業論文の作成に役立てて貰うことであった。

■ 1.はじめに

筆者は2004年の10～11月に、筆者がティーチング・アシスタントとして所属していた駒澤大学仏教学部のゼミの学部3年次・4年次生合わせて約50人（3年次生が9割）を対象に、卒業論文作成のための情報検索入門授業を3回に分けて行った。

本授業の目的は、インターネットが一般化しつつある中（2004年当時）、インターネットや図書館を有効に利用して短時間で有意義な情報を適切に入手・判断・利用し、学生の最大課題である

## ■ 2. 授業の具体的な内容について

各回の内容は次の通りである。

- 初回：大学図書館事務局が実施する大学図書館ツアーへの参加。
  - 2回目・3回目：筆者が自作したテキストに沿っての卒業論文の作成方法、及び情報検索の説明。

## \* 2.1. 大学図書館ツアーとは

大学図書館ツアーやは、他大学の図書館でもほぼ同様であると思われるが、大学図書館事務局が開催する大学図書館内の各種設備を見学対象とするツアーであり、具体的には、図書館ビデオ<sup>111</sup>の観覧、普段は学部生の立ち入りが制限されている閉架書庫を含む館内の見学、各種データベース専用端末の使い方の紹介、である。

なお、大学図書館ツアーは、本授業を行った当時は、学生の参加は義務ではなく、事務局が定期的に開催するツアーに学生が個人として自主的に参加するか、本授業のように、ゼミ単位で参加するものであった<sup>[2]</sup>。

本授業においては、館内見学、データベース専用端末紹介について、ゼミの専攻と関わりの深い



仏教学・禅学に関係するものを重点的に担当者より紹介して頂いた。

### \* 2.2. 卒業論文の作成方法、及び情報検索の説明

大学図書館ツアーへ参加した週の翌週、及びその翌々週にかけ、大学の情報センター棟のPC教場にて卒業論文の作成方法、及び情報検索の説明を行った。

具体的には、学部生が手許に置いて卒業論文を作成して貰うために筆者が自作したテキスト<sup>[3]</sup>について、その内容を逐次説明し、検索を体験出来る箇所については随時体験して貰った。

#### ◆ テキストの目次

##### 1. 演習発表原稿・卒業論文作成

- (1) 演習発表原稿作成時の注意点
  - (i) 調査した用語の書き方
  - (ii) 調査に使用する辞典
- (2) 卒業論文作成時の注意点
  - (i) 引用

##### 2. インターネットでの検索

- (1) 検索システム
  - (i) ロボット検索とディレクトリ型
  - (ii) ブール演算子
  - (iii) ブール演算子以外の検索システム
  - (iv) 検索のヒント
- (2) 有益サイトの紹介
  - (i) サイトの信用性
  - (ii) 宗教・仏教・学術関係
  - (iii) 生活関係
- (3) 情報収集
  - (i) SDI
  - (ii) RSS

##### 3. 論文・書籍検索

- (1) 論文検索
  - (i) 芽づる式検索
  - (ii) インターネットでの検索

#### (ii) 外部有料情報の検索 [ 図書館から ]

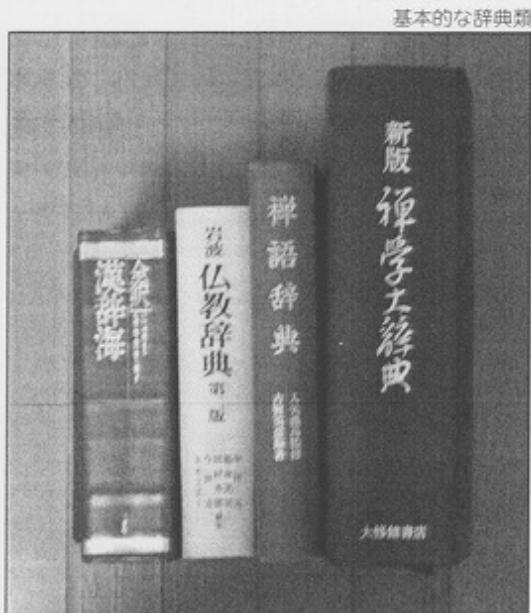
- (2) 書籍検索
  - (i) 図書館での検索
    - ① 書籍の検索
    - ② 情報の検索
  - (ii) 書店での検索
    - ① 新刊
    - ② 古書
  - (iii) 図書館・書店案内

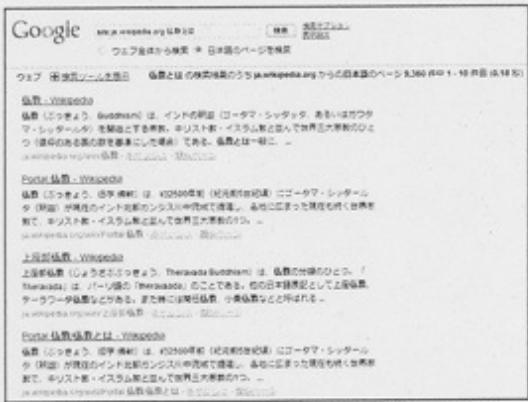
#### ◆ 2.2.1. 「1. 演習発表原稿・卒業論文作成」について

以下、テキストの目次に従って授業内容を紹介する。

「1. 演習発表原稿・卒業論文作成」では、作成の際の注意事項として、まず、発表原稿の文中で説明する用語については「出典元の辞典名・ページ数を明記する」こと、引用する際には「引用文の前に著者名・論文名を明記し、自分の文章と明確に区別する為に2段落とす」「孫引きはしない」という基本的な事項を説明した。

次に、『禅語辞典』(入矢義高監修; 古賀英彦編著、思文閣出版、1991年)・『禅学大辞典』(禅学大辞典編纂所編、大修館書店、1985年)・『岩波仏教





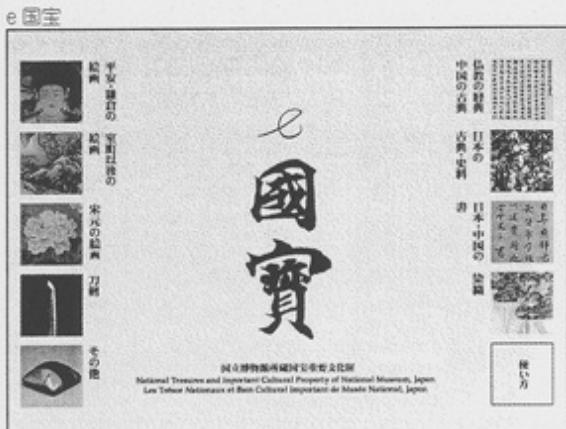
サイト限定検索と「○○とは」検索を組み合わせた例

辞典 第二版』(中村元ほか編、岩波書店、2002年)・『広説佛教語大辞典』(中村元編、東京書籍、2001年)・『全訳漢辞海』(戸田芳郎監修、三省堂、2003年)など、仏教学・禅学関係の卒業論文の作成で使用する基本的な辞典類を紹介した。

#### ◆ 2.2.2. 「2. インターネットでの検索」について

「2.インターネットでの検索 (1)検索システム」では、まず、インターネットに存在する検索システム (Googleなどのロボット型と昔のYahoo!などのディレクトリ型) について簡単に説明した後、基本的な検索方法である布尔演算子 (or や and、not など)、前方 (後方・中間・中間任意) 一致検索 (トランケーション)、完全一致検索 (" " でキーワードを囲む)などを説明した。

更に検索の応用編として、「○○とは」で検索すると、○○についての説明ページが検索される、



「site:」で始まるサイト限定検索、「jp」「uk」などの国別、「ac」「go」などの機関別アドレスを利用した検索方法などを説明した。

「(2)有益サイトの紹介」では、まず、サイトの信用性について「信用性が確立されていない<sup>[4]</sup>ので引用してはいけない」と利用について注意喚起し、更新日時の新旧や制作者の自己紹介ページの有無、明記されているのであれば所属機関の社会的信用性、「ac」「go」などのドメインなども、信用性の判断材料とすることを説明した。

その後「Yahoo! Japan カテゴリ>資料と情報源<sup>[5]</sup>」「OrientNet<sup>[6]</sup>」「e 国宝<sup>[7]</sup>」など、宗教・仏教・学術関係の卒業論文作成に際して有益なサイトを逐次紹介したほか、「Yahoo! 天気情報<sup>[8]</sup>」「道路交通情報センター<sup>[9]</sup>」「ぐるなび<sup>[10]</sup>」など、日常生活において有益なサイトも紹介した。

「(3)情報収集」では、「Kinokuniya e-Alert<sup>[11]</sup>」「カレントアウェアネス-E<sup>[12]</sup>」など、特定分野の情報を提供する SDI [Selective Dissemination of Information、選択情報提供システム] に該当するメールマガジンについて紹介し、利用を勧めたほか、授業当時、日本では余り利用されていなかった RSS (RDF Site Summary) についても簡単に紹介した。

#### ◆ 2.2.3. 「3. 論文・書籍検索」について

「3.論文・書籍検索」では、卒業論文作成の際により具体的に必要となる、先行研究論文・書籍の探し方や、大学図書館での探し方について、図書館ツアーと重なる部分も含めて、詳しく説明した。

「(1)論文検索」では、大まかな探し方として、テーマごとに分類されている図書館の書架の前で眺めて探すブラウジング<sup>[13]</sup>と、書籍巻末の参考文献リストから辿っていく芋づる式検索 (Chaining) の2種類があり、前者は大まかなテーマが決まっている時に、後者は文献の関連性が高いなどの特徴があることを説明し、「国立国会図書館雑誌記事索引<sup>[14]</sup>」「インド学仏教学論文データベース<sup>[15]</sup>」「曹洞宗関係文献目録<sup>[16]</sup>」など、仏教学・禅学と関係の深い論文データベースを紹

介した。

また、図書館から利用出来る外部の有料データベースの中から、MAGAZINEPLUS<sup>[17]</sup>や大宅壮一文庫雑誌記事索引<sup>[18]</sup>、NACSIS-IR<sup>[19]</sup>などの論文データベースについて簡単に使い方を説明したほか、論文データベースは、それぞれ採録対象の論文誌が異なるため、1カ所だけでは特定の執筆者、分野の論文を検索しきれないため、必ず3、4カ所の論文データベースに当たり、網羅度を高めることについても注意した。

「(2)書籍検索」では、まず、実際に図書館で書籍を検索する際に知っておくと便利な分類記号(仏教は18、禅は188.8)や請求記号(分類記号+受入番号+著者の姓の最初のカタカナ1文字)について説明した。

次に、目的の書籍が駒大の図書館ではなく、他大学の図書館にその所蔵の有無を検索する「Webcat<sup>[20]</sup>」を紹介した。

また、その他人名・地名・新聞・法律・判例などを調べる際に有効な、「世界伝記大事典」(ほるぶ出版、1978年)、「角川日本地名大辞典」(角川書店、1978年～)、「新聞集成明治編年史」(財政経済研究会、1934年)、「衆議院制定法律<sup>[21]</sup>」、「判例体系」(第一法規)を紹介した。

また、大学図書館外での書籍の検索対象として、日本書籍総目録<sup>[22]</sup>、仏教書総目録<sup>[23]</sup>、Amazon<sup>[24]</sup>、紀伊國屋書店<sup>[25]</sup>、ジュンク堂書店<sup>[26]</sup>、日本の古本屋<sup>[27]</sup>などの目録、書店サイト、国立国会図書館、国立公文書館<sup>[28]</sup>、東京都立図書館<sup>[29]</sup>などの図書館、山喜房佛書林<sup>[30]</sup>、中山書房佛書林<sup>[31]</sup>、東陽堂書店<sup>[32]</sup>などの仏教学・禅学に関連する書店などを紹介した。

### 3. 反省と今後の課題

本授業は、基本的に卒業論文の作成方法・検索方法の説明に終始し、学生の検索演習については、説明中に自主的に端末を操作するだけに留めた。

これについては、課題達成方式では、学生個々人の検索能力の差が現れてしまい、授業を進める上で大幅に時間を取られてしまうことになるため、

件名	タイトル	著者名	登録日	機関別	登録年	件数
久保田 直道	北朝の宮廷の通商規制と税制構造の考察など	吉澤正子・井上 達也	0001	29-32	2000	1
高橋 伸泰	日元との貿易の背景と傾向について	吉澤正子・井上 達也	0001	135-142	2000	1
武士 伸泰	山喜房佛書林と提携法師の問題	吉澤正子・井上 達也	0001	86-102	2000	1
城野 誠吾	仏教の現状問題	吉澤正子・井上 達也	0001	77-110	2000	1
久保田 直道	供給側変動に対する京都王朝の歴史的交渉について	吉澤正子・井上 達也	0001	18-44	2000	1
二宮 伸人	日本と韓国との貿易	吉澤正子・井上 達也	0001	109-116	2000	1
武士 伸泰	通商と貿易	吉澤正子・井上 達也	0001	204-271	2000	1
高橋 伸泰	在京僧徒貿易と都構造の地理	吉澤正子・井上 達也	0001	2-320	2000	1
内山 伸泰	通商貿易としての山喜房佛	吉澤正子・井上 達也	0001	61-67	2000	1
高橋 伸泰	山喜房と通商	吉澤正子・井上 達也	0001	101-12	2000	1
高橋 伸泰	山喜房と通商の歴史	吉澤正子・井上 達也	1894-03-02	16-24	1999	1
高橋 伸泰	山喜房の貿易	吉澤正子・井上 達也	1894-03-02	17-38	1999	1
高橋 伸泰	通商と山喜房	吉澤正子・井上 達也	1894-03-02	39-49	1999	1
高橋 伸泰	山喜房の山喜房	吉澤正子・井上 達也	1894-04-02	82-82	1999	1
高橋 伸泰	山喜房の山喜房	吉澤正子・井上 達也	1894-05-02	119-121	1999	1
高橋 伸泰	山喜房	吉澤正子・井上 達也	1894-06-02	164-165	1999	1

インド学仏教学論文データベース

行わないことをゼミの指導教員と事前に決めたことによるものである。

しかし、その場合、学生に検索能力が身に付いたか否かをその場で確認出来ず、卒業論文の出来具合によって判断するしかなく、授業の効果を判断するのに時間がかかるデメリットは避けられなかった。

また、漢情研第11回大会でもご指摘を頂いた通り、本授業は仏教関係の卒業論文の作成に必要な情報検索についての知識入手することに特化しているため、学生の卒業後の人生において応用

NACSIS Webcat

総合目録データベース WWW検索サービス

Webcatは、学術研究利用のために提供するものであり、莫利のための利用はできません。なお、Webcatで検索した結果について、図書館に利用を希望する場合には、各図書館で利用条件が異なる場合がありますので、あらかじめ該当する図書館にて確認ください。  
[検索結果]は [[国際標準化記号]] [[文書識別記述]] [[English version.html]]

\* 全項目 / 国際 / 国語

タイトル・ワード : 仏教通商と通商

著者名 :

出版年 :

件名番号 :

フリーカード :

フルタイトル :

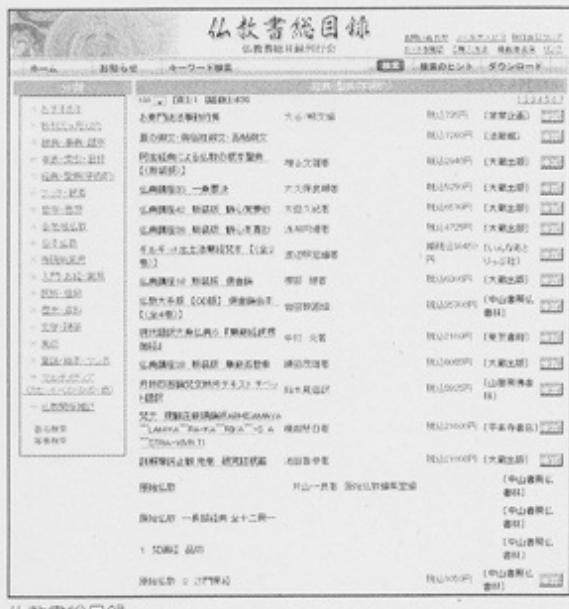
URL :

【範囲】

- 検索 : NACSIS-Webcatは、Internet Explorer フォーム版では正しく表示されない場合があります。
- 2005年度中にWebcat PlusとWebcatを一本化することは、周知させていただきました。
- 各種機器のシステムをWebcatで操作的に使用するなどの形での利用を希望する場合は、必ず直接てあらかじめ申請してください。個人的利用については、ご当地を御覧ください。

NACSIS-CAT/ULL (国際標準化記述サービス) || (国際標準化記述サービス)

Copyright (C) 2005 NII All Rights Reserved



仏教書総目録

した使い方が出来るかについては、不向きな部分が否めない。

以上の点については、今後当該授業を行う機会がある際には、十分な授業時間を確保した上で、簡単な検索課題を適宜行う学習方式の導入、及びより社会人の生活においても応用可能な内容へ変更し、より学生にとって有意義な授業にしていきたいと考えている。

なお、本授業は、急遽行うことが決まったイレギュラーなものであり<sup>[33]</sup>、大会でお尋ねのあつたように、他の先生方との連携については、その段階にないのが現状である。共通の授業としてカリキュラムに組み込むには、本授業の有効性についての共通認識が欠かせないが、それには、その前段階として情報検索の有効性についての共通認識が必要となる。共通認識が形成されるまでには、少なくない時間がかかるものと推定される。

## 注

- [1] 「情報検索入門 新・図書館の達人3」(紀伊国屋書店、1998年)：内容は図書館での適切な書籍の探し方を、学生2人と職員のQ&A形式で紹介。
- [2] 文系の学生であれば、卒業論文の作成に際し、大学図

書館をどれだけ上手に利用できるかどうかがその出来具合を左右するのだから、筆者としては任意参加ではなく、義務にしてはどうかと思う。

- [3] テキストは下記よりダウンロード可能。

<http://bukkyobunko.hpt.infoseek.co.jp/buddhismsearch.pdf>

なお、morogramなど、授業当時には含まれなかった内容も一部含まれる。これは筆者が徐々に内容を追記・修整していくうと、2005年当時に予定していたからである。

- [4] 2004年当時。2009年現在においても完全には信用してはいけないのは言うまでもない。

- [5] Yahoo!Japan カテゴリ>資料と情報源：  
<http://dir.yahoo.co.jp/Reference/>

- [6] OrientNet：

<http://www.uuii.net/~orient/>

- [7] e 国宝：

<http://www.emuseum.jp/>

授業で紹介した際、日中韓英仏の5カ国語で解説していることが学生に好評だった。

- [8] Yahoo! 天気情報：

<http://weather.yahoo.co.jp/weather/>

- [9] 道路交通情報センター：

<http://www.jartic.or.jp/>

- [10] ぐるなび：

<http://www.gnavi.co.jp/>

- [11] Kinokuniya e-Alert：

<http://ealert.kinokuniya.co.jp/>

- [12] カレントアウェアネス-E：

<http://current.ndl.go.jp/cae>

- [13] 因みに、ブラウザの語源である。

- [14] 国立国会図書館雑誌記事索引：

<http://opac.ndl.go.jp/>

- [15] インド学仏教学論文データベース：

<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/INBUDS/search.php>

- [16] 曹洞宗関係文献目録：

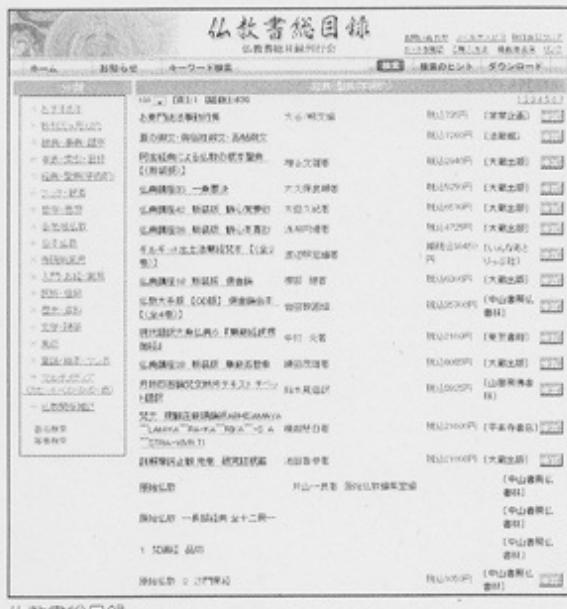
<http://www.sotozen-net.or.jp/tmp/kensaku.htm>

- [17] MAGAZINEPLUS：

<http://www.nichigai.co.jp/database/mag-plus.html>

- [18] 大宅社一文庫雑誌記事索引：

<http://www.oya-bunko.com/>



仏教書総目録

した使い方が出来るかについては、不向きな部分が否めない。

以上の点については、今後当該授業を行う機会がある際には、十分な授業時間を確保した上で、簡単な検索課題を適宜行う学習方式の導入、及びより社会人の生活においても応用可能な内容へ変更し、より学生にとって有意義な授業にしていきたいと考えている。

なお、本授業は、急遽行うことが決まったイレギュラーなものであり<sup>[33]</sup>、大会でお尋ねのあつたように、他の先生方との連携については、その段階にないのが現状である。共通の授業としてカリキュラムに組み込むには、本授業の有効性についての共通認識が欠かせないが、それには、その前段階として情報検索の有効性についての共通認識が必要となる。共通認識が形成されるまでには、少なくない時間がかかるものと推定される。

## 注

- [1] 「情報検索入門 新・図書館の達人3」(紀伊国屋書店、1998年)：内容は図書館での適切な書籍の探し方を、学生2人と職員のQ&A形式で紹介。
- [2] 文系の学生であれば、卒業論文の作成に際し、大学図

書館をどれだけ上手に利用できるかどうかがその出来具合を左右するのだから、筆者としては任意参加ではなく、義務にしてはどうかと思う。

- [3] テキストは下記よりダウンロード可能。

<http://bukkyobunko.hpt.infoseek.co.jp/buddhismsearch.pdf>

pdf

なお、morogramなど、授業当時には含まれなかった内容も一部含まれる。これは筆者が徐々に内容を追記・修整していくうと、2005年当時に予定していたからである。

- [4] 2004年当時。2009年現在においても完全には信用してはいけないのは言うまでもない。

- [5] Yahoo!Japan カテゴリ>資料と情報源：  
<http://dir.yahoo.co.jp/Reference/>

- [6] OrientNet：

<http://www.uuii.net/~orient/>

- [7] e 国宝：

<http://www.emuseum.jp/>

授業で紹介した際、日中韓英仏の5カ国語で解説していることが学生に好評だった。

- [8] Yahoo! 天気情報：

<http://weather.yahoo.co.jp/weather/>

- [9] 道路交通情報センター：

<http://www.jartic.or.jp/>

- [10] ぐるなび：

<http://www.gnavi.co.jp/>

- [11] Kinokuniya e-Alert：

<http://ealert.kinokuniya.co.jp/>

- [12] カレントアウェアネス-E：

<http://current.ndl.go.jp/cae>

- [13] 因みに、ブラウザの語源である。

- [14] 国立国会図書館雑誌記事索引：

<http://opac.ndl.go.jp/>

- [15] インド学仏教学論文データベース：

<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/INBUDS/search.php>

- [16] 曹洞宗関係文献目録：

<http://www.sotozen-net.or.jp/tmp/kensaku.htm>

- [17] MAGAZINEPLUS：

<http://www.nichigai.co.jp/database/mag-plus.html>

- [18] 大宅社一文庫雑誌記事索引：

<http://www.oya-bunko.com/>

## 授業報告：卒業論文作成のための情報検索入門（藤原）

- [19] NACSIS-IR（現在は GeNii に統合）  
<http://ge.nii.ac.jp/genii/jsp/index.jsp>
- [20] Webcat：  
<http://webcat.nii.ac.jp>
- [21] 衆議院制定法律：  
[http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index\\_housei.htm](http://www.shugiin.go.jp/index.nsf/html/index_housei.htm)
- [22] 日本書籍総目録：  
<http://www.books.or.jp/>
- [23] 仏教書総目録：  
<http://www.bukkyoshogr.jp/>
- [24] Amazon：  
<http://www.amazon.co.jp/>
- [25] 紀伊國屋書店：  
<http://www.kinokuniya.co.jp/>
- [26] ジュンク堂書店：  
<http://www.junkudo.co.jp/>
- [27] 日本の古本屋：  
<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>
- [28] 国立公文書館：  
<http://www.archives.go.jp/>
- [29] 東京都立図書館：
- [30] 山喜房佛書林：  
<http://www003.upp.so-net.ne.jp/sankibou/>
- [31] 中山書房佛書林：  
<http://www.kotobuki-p.co.jp/nakayama/>
- [32] 東陽堂書店：  
<http://touyoudou.jimbou.net/catalog/index.php>
- [33] 急遽行うことが決まった理由は、筆者がその数ヶ月前に司書、並びに情報検索基礎能力について数ヶ月間集中講義を受け、その重要性を認識し、是非学部生に身に着けてもらいたいと、ゼミの指導教員に申し出たことによる。なお、3回目の授業は授業時間の中途中で終わってしまい、時間に余裕が出来たので、永平寺の修行僧の様子が撮影されたNHKスペシャル「修行の四季」を鑑賞した。ゼミ生の数割が卒業と同時に同寺に修行僧として入るため、真剣に見ていた姿が印象的だった（修行する必要がない一般家庭出身の学生の中に寝ていた者がいたことと対照的に）。学生の将来に資するという点では、情報検索よりも、こちらの鑑賞の方が役に立ったということについては、複雑な心境である。